

ある遺言から生まれた命のうた

一粒の種

砂川恵理歌

- 収録内容 -

1. 一粒の種

作詞：中島正人・高橋尚子・下地 勇 作曲：下地 勇

2. 寂寥

作詞：下地 勇 作曲：下地 勇

税込 1,000 円 YRCN-90057

一粒の種でいいから生きていたい。

あるがん患者の最後の言葉を女性看護師が聞き取り「一粒の種」という詩にした。

看護師は沖縄・宮古島出身。同郷のシンガーソングライター下地勇に頼み曲にしてもらったところ、沖縄県内で話題となる。

下地勇からCD化を託されたのは、同じ宮古島出身の砂川恵理歌。

患者の死から5年。リレーされたその無念の言葉は、残された者への励ましとなり全国へ静かな感動を広げている。

この歌に寄せられたメッセージは現在 1,000 を超えている。



生と死がせめぎあう病院という空間で、看護師は患者を見る。健康を取り戻した患者を社会に送り出す日もあれば、救いたくても救えない命に真正面から向き合わねばならない日もある。彼の最期を看た時もそうだった。闘病に耐えた末、初めて吐露された彼の思いは「一粒でいい。人間の種になって生きていたいよ・・・」だった。間もなく彼は逝き、私が彼の最期の言葉を預かることとなった。

私が種を蒔こうと心に誓い、メールマガジン「くまから かまから」に初めて「一粒の種」を蒔いたのは2004年のことだった。彼の遺志であるこの詩は両親にも届き、心の支えに生きていこうとするが、哀しみのなか、母親は病に倒れてしまった。息子の遺志である「一粒の種」が歌になったら、寝たきりの母親の耳にも届くに違いない。悲痛な毎日を送る父親に元気になってもらいたい。その一心から話をしたのが下地 勇さんだった。「一粒の種でいい、生きていたい」と願った彼の遺志は、下地 勇さんの手によって歌となり、母親の眠れる記憶をも揺さぶった。歌を聞いた母親は、息子の遺志に応えるように自ら言葉を発したのだった。

逝かねばならない日の哀しみの詩は、時を経て残された者への慈愛の歌となり、続くこの先もいつも側にいることを教えてくれる。まさに彼が願った「命の種になってこの世に在り続ける」ことになったのである。これらの一連のことに「一粒の種」を蒔いた者として、驚きと感動、何よりも感謝の気持ちを抑えることができない。病院という空間で生まれた「一粒の種」を、患者と看護師の世界の「第一章」とするならば、下地 勇さんの感性から生まれた歌「一粒の種」は音楽の世界の「第二章」である。命の愛しさを伴って、語りかけるように砂川恵理歌さんに歌われるこの歌は、まるで慈愛溢れる魂の囁きのよう。癒しと安らぎに包まれながら砂川恵理歌さんから始まる「第三章」を感じる・・・。

彼の冥福を心から祈るとともに、この歌が必要とされる人の元に届きますように。そして、聴いた人の心にも芽をだしますように・・・。

高橋尚子(看護師)

この歌は、短い一生を終えようとする人の最後の言葉が元になっています。しかし、それは決して絶望や無念の思いなどではありません。残されたものへの深い愛情。もう一度会えるという強い確信。「すぐ傍にいるよ」と、寄り添うように囁きかける慈しみ。生死の境界を超越したような言霊の一つひとつが、聴く者に希望を与えてくれる、そんな人間愛に満ち溢れた歌なのです。

最後の言葉を言い遺した者から、それを看取った看護師へ、看護師から 作曲家へ、そして歌い手へ、それはまるで一粒の種が見えない力に導かれるように、人の手から手へと伝って蒔かれ、芽を出し生長していくようです。

砂川恵理歌さんの歌の力によって、一粒の種が全国へ、全世界へ蒔かれる時がきました。この歌を聴いた人は、命の尊さを琴線で感じ、優しさに包まれ、きっと勇気づけられるに違いありません。

下地 勇(シンガーソングライター)

2月に沖縄県内で放送させて頂いたNHKドキュメンタリー「一粒の種～遺言から咲いた命の歌～」。約4ヶ月の間、「一粒の種」がCDとして形になり世の中に種として蒔かれるまでをディレクターとして撮影させて頂きました。「一粒の種」を最期のメッセージとして残した患者さんである中島正人さん、詩を書かれた看護師の高橋尚子さん、曲をつけられた下地勇さん、そしてCD化に向けて歌い継ぐ砂川恵理歌さん。4人の「命への思い」が積み重なりCDという形になっていくまでを、幸運なことにととても近い距離で見守らせて頂くことができました。

番組放送後にはNHKには、今でも毎日のように沢山のハガキやメールが届いています。「胸が痛くなり涙が止まらなかった」「砂川さんの声がガンで亡くなった母の声に聞こえるようだ」「20代で亡くなった優しかった弟を思い出した」・・・見た人、聴いた人のそれぞれが「自分自身の大切な人との別れ」を重ね合わせ、心を揺さぶられているのです。

それは私自身も同じです。私は「一粒の種」を聴く度に去年の春に52歳で急逝した父親のことを思い出します。口数は決して多くはなかったですが、優しく家族思いの父親の笑顔が目の前に浮かぶんです。

「大切な人との別れ」はとても悲しくて辛いことです。ただ「一粒の種」は単純な悲哀の歌ではないと思っています。

出会って語って笑って泣いた

生きててよかったよ あなたのそばでよかったよ

志半ばで天国へ旅立った中島さん。

それでも「生きててよかった」と言える「生きていることの素晴らしさ」。

詩に含まれているこのメッセージが別れへの嘆きだけではない、温かい涙を人々に流させているんだと思います。

砂川さんの優しい歌声を通して「一粒の種」が全国の人々の心に蒔かれ、命の花を咲かせていくことを願っています。

山崎隆博(NHK 沖縄放送局ディレクター)

誰の心にもある悼み。その傷口にやわらかな手をそっとあててくれる「一粒の種」。だから、ぼくなら母の言葉が甦った。癌の手術を終え、退院した母から届いた手紙には、「庭の花が咲くのをこんなに嬉しい気持ちで見た事は今までなかった」と綴られていた。ある人は亡くした家族を語ったという。「じっくり一人で聴くたび、死んだじいちゃんとはあちゃんを思い出します」とメールをくれた方もいる。

歌は世に連れ、世は歌に連れ、盛者必衰のことわりをあらわす。が、もしも継がれる歌があるのなら、「一粒の種」がそれだ。トレンドと呼べるものなんて一滴もなくとも、安らかなる胸中を訥々とささやいているから。ささやかなることの尊さを思い出させてくれるから。たとえばミリオンヒットが流行ファッションなら、「一粒の種」は胸ポケットに忍ばせた愛する人の写真。どんな服を着ても、写真はそこに。服の上からでも手をあてると、自分にしか見えない光を感じる。

そして、もう1点どうしても書かずに終われないのが砂川恵理歌について。技巧を排した無垢さに耳を奪われた。声の響きや揺らぎに虚飾はない。あまたの歌があり、あまたの歌手がいるなか、この歌が彼女を求め、彼女がこの歌を求めていたと思えるほどだ。彼女の声は風。ゆるやかに吹く。一粒の種を運ぶ。それはほくの、あなたの、誰かの心に舞い降りる。やがて芽吹き、花が咲く。枯れることのない花を咲かす。

藤井徹貫(ライター)

一般の方のお便りから「一粒の種」と砂川恵理歌に宛てて、これまでに1,000を超えるメッセージをいただきました。その一部をご紹介します。

・私の父は、13年もの間、脳梗塞で倒れて寝たきりだった母を看病し続け、3年前に自分が先に逝きました。父が亡くなったことを知ってか知らずか、後を追うように母も去年亡くなりました。元気だったとき、父は亭主閑白という言葉そのままの人でした。そして物静かで献身的な母。でも最期の13年間、父は見事なまでに眠ったままの母を愛しみ、毎日を寄り添って生きていました。この歌を聴くと、午後のやわらかな光が射す病室で、ベッドで静かに眠る母と母の側で静かに読書をしていた父のうしろ姿が浮かび、涙がこみ上げてきます。あのとき私に何ができたのか、今両親にできることは何なのか。答えはでないけれど、二人に対する感謝の気持ちにあらためて気づきました。ありがとう。

・弟が病気で亡くなる前、ある日「お金も何もいらない、命が欲しいよ」とつぶやいていたことを思い出しました。吐き出した無念の言葉に、何も言ってあげることができなかった。弟の分まで生きようと思ったことをあらためて思いだしました。この歌は弟の言葉だと思って、毎日聞かせていただきます。

・「一粒の種」を聞き、私が高校生の時、ガンで亡くなった父のことを思い出し涙があふれました。恵理歌さんの歌声は父が亡くなった悲しい思い出・主人との出会い・子供が生まれた感動が歌声に乗ってゆっくりと流れてくる素敵な歌声です。CDを何度も聞いています。

・息子が大きくなって僕の手を離れてゆく姿を父として笑って見送りたかったです。生きていたいです。中島さんの言葉を、次の人たちに伝えてほしいです。

・去年の春、姉をガンで亡くした僕には、重くて辛い歌でした。お見舞に行ったとき、痩せ細って、薬の影響で辛いのに、一生懸命笑おうとする顔が、生々しくよみがえります。でも、同時にこの歌から命の尊さ、健康でいられることの有難さ、大切な人を思う気持ちを改めて考えさせられました。

・恩師がガンの手術をして退院して帰ってきてから「庭の花が、雑草ですら、とてもきれいに見えます」と手紙に書いてきました。この歌をラジオで聞いて、そのことを思い出しました。当たり前なことがこんなにも素晴らしいことなんだと気づかされる曲です。出会えてよかったです。



すなかわ えりか

砂川恵理歌 沖縄県宮古島市出身

2006年デビュー。豊かな歌唱力、屈託のない笑顔、そして赤ブチメガネがインパクト大で、地元沖縄では実力派のシンガーとして知られる。また、県内のCM曲を多数担当しており、テレビ・ラジオから砂川の歌声を聞かない日はないほど。介護職の経験のある、異色シンガーでもある。デビュー前の05年には「NHKのど自慢嘉手納町大会」でチャンピオンになった経歴をもつ。



Debut Single

「Heart Drops」

発売日：2006年12月20日
YRCN-10178/¥1,050 (TAX IN)



Mini Album

「笑」

発売日：2007年10月24日
YRCN-95001/¥1,800 (TAX IN)



2nd Single

「ひかり」

発売日：2008年7月30日
YRCN-90019/¥1,050 (TAX IN)

「一粒の種」この曲に最初に出会ったのは、もう1年以上前。「歌いたい」と心の底から思い、私という人間の存在意義をやっと見つけれられたような不思議な気持ちになったのを鮮明に覚えています。

歌手を夢見て東京に出たけれども、夢破れ、諦めて沖縄に戻ったこと。介護職に携わって人生の大先輩たちと過ごす生活のなかでもう一度歌手を目指そうと思ったこと。悩み、迷い、遠まわりしたように見えるけど、きっとこの歌に出会うために、あの年月があったのだろう、と感じています。

私に受け渡されて、こうしてCDという形になるまで、関わったお一人お一人に、もちろん私自身にも、それぞれの「一粒の種ストーリー」があります。そして、聞いて頂いた皆様にも、きっとあなた自身の「一粒の種ストーリー」があるのだと思います。この曲には、「私は・・・」と話したくなる不思議な力があるようです。大切な方を想いながら、耳を傾けて頂けると嬉しいです。歌い手として、あなた自身の「一粒の種ストーリー」への橋渡し役として一生大切に歌い続けたいと思います。

「一粒の種」に出会えたことと、そして応援してくださる全てのご関係者とあなたへ—
心からありがとうございます。

砂川恵理歌

「一粒の種」の背景を描いたNHK制作のドキュメンタリー番組『ドキュメント沖縄 一粒の種 ～遺言から咲いた命の歌～』。09年2月沖縄ローカルで放送されたこの番組は、反響に反響を呼び、6月には追加撮影を加えた形でNHK教育テレビで全国放送されました。その後も数度のアンコール放送が。そのたびに感動のメッセージが寄せられています。今、「一粒の種」が全国に静かな感動を生んでいます。

これまで取り上げられた主なメディア

2009年

2月 NHK 沖縄放送局 ドキュメント沖縄「一粒の種」

5月 朝日新聞夕刊「窓 論説委員室から」
朝日新聞夕刊「こころ」

6月 NHK 教育全国ネット「福祉ネットワーク 一粒の種～遺言から咲いた命の歌～」
NHK 総合テレビ「ゆうどきネットワーク」
NHK ラジオ第一「日曜あさいちばん」
NHK 総合テレビ「おはようサタデー九州・沖縄」

7月 読売新聞 朝刊「顔」

8月 週刊文春

NHK 総合テレビ(九州・沖縄地方)ドキュメント沖縄
「一粒の種～遺言から咲いた命の歌～」再放送

NHK 教育テレビ「福祉ネットワーク 一粒の種～遺言から咲いた命の歌～」再放送

9月 NHK 教育テレビ「福祉ネットワーク 一粒の種～遺言から咲いた命の歌～」再放送
月刊「がんサポート」10月号

10月 琉球新報「一粒の種」連載スタート(沖縄県内)

「一粒の種」

一粒の種に 一粒の種に
ちっちゃくていいから
私もう一度 一粒の種になるよ

出会って 語って 笑って 泣いた
生きててよかったよ
あなたのそばでよかったよ

一粒の種は風に飛ばされ
どっかへ行ってしまふけれど
あなたへと辿る確かな道を
少しずつ舞い戻って
丘の上からあなたにだけ見える
闇にも負けない光を放とう
ささやかな日々にも愛をもらった
私にはそれができる

一粒の種に 一粒の種に
ちっちゃくていいけど
あなたにだけ 気づいてもらえる種になる

痩せた頬にもう涙を流さないで
震える声でもう語りかけないで
私は笑顔であなたを見ている
私を愛するあなたを見ている
心配ばかりかけてごめんね
淋しい思いさせてごめんね
そろそろあなたを 次の場所で
喜ばせてあげるから

一粒の種に 一粒の種に
ちっちゃくていいから
命の種に 必ずなるから
すぐそばにいるから

作詞：中島正人・高橋尚子・下地 勇 作曲：下地 勇

日本音楽著作権協会（出）許諾第 0907531-901



Smile Seed Project ～一粒の種を全国に～

「一粒の種」をお一人お一人に届け、一緒にたくさんのお話をしたい。そんな思いから全国の学校や医療関係施設でのミニコンサートを実施しています。砂川恵理歌が訪れた場所には花の種をプレゼントする年間プロジェクト。歌うだけでなく、みなさんとなるべく多くのコミュニケーションをとって砂川恵理歌自身も成長していきたいと考えています。これまでに100ヵ所以上を訪問し、現在も訪問先を募集中です。詳しくは、砂川恵理歌のWEBサイト <http://sunakawaerika.net> でご覧ください。実施場所のレポートも掲載しております。（協賛：タキイ種苗株式会社）

INFORMATION <http://sunakawaerika.net>

お電話でのお問い合わせ：(株)よしもとアール・アンド・シー 0120-600-316 (平日 11:00 ~ 18:00)
お手紙・ハガキ等のご送付：〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-18-21
(株)よしもとアール・アンド・シー 砂川恵理歌 宛て